

地域活性化部会 2024 年度 第 3 回 議事録

作成 斯波 2025/1/21

打ち合わせ日時 2025/1/18 土曜日 15:00～15:45

出席者 飯島、鈴木、大塚、小林、土岐田(オブザーバー)、斯波 計 6 名
欠席者 海野

飯島部会長から

- A 前回 (2024/11/2) の部会の内容を議事録で確認。
- B 地域活性化部会委員名簿で現委員の確認
- C 各地区の継続的な特定事業事例の参考確認
- D まちぢ&自治会の事業 (行事) の参考確認
- E ジュニアリーダーズクラブに関する情報の紹介

F 討議内容

① 文教大学に打診したその後の状況

- ・東京の文教大学に地域に関する先生がいるとのことで、その先生の論文等 (専門分野) を確認した方が良い。
- ・他の大学でも「地域」に関するテーマが取り上げられている様である。
相談先としていろいろ探してみるのも良いのではと。
- ・以前、資料として配布した社団法人・地域活性化センターの研究事例でも、横浜国立大学院国際社会科学研究科、立教大学観光学部の参加があり。
- ・各大学で、地域学部、地域科学部、地域デザイン科学部等、「地域」「環境」が大きく取り上げられている様。

② テーマの絞りこみをどうするか (専門家の先生に相談する前に)

- ・大学に相談する前にこの地域で取り組みたいテーマ等をある程度絞っておく必要があるのでは。
- ・今現在継続中の特定事業事例、行事 (上記の資料C, 資料D) も参考にする。

- ・今ネットワーク会議で地域の担い手がないということが議論されている。
イベントにもボランティアとして若い人の参加を進めることが課題となっている。
- ・60～70 歳台で現役を引退してから、さあ地域活動をといても難しい点もあり
もっと現役の方達からコミュニティ活動に参加出来る様な仕組み作りも必要なのでは。
- ・若い人達の中からこんながあると活動テーマを聞き出してみるのはいかがでしょうか。
- ・ボランティア活動も学校で社会活動実績として認められる時代であり、有効な
経験として生かすことが出来る。自分で考え実行した経験が受験でも就職でも
役立つのでは。指導力が必要だがまずは切っ掛け作りが大事。
- ・このコミセンを利用する学生に対してアンケートを実施しその回答者の中から
何人かをセレクトし、一緒にテーマを検討するメンバーとなって貰うのはいかがでしょうか。
- ・当コミセンの年間利用者総数 55000 人の内、半数以上の約 30000 人が中高大生。

③ ジュニアリーダーに関して

- ・要望のある地域の子供会へのボランティアとして派遣活動をしている。
- ・ジュニアリーダーも含めてジュニアリーダーの関係団体が、我々地域活性化部会で活用出来るか、協力頂けるかどうか

④ 今後の予定

- ・文教大学の回答を確認する。この回答が次のステップに繋がられるか全メンバー
で検討する。
- ・次回迄にアンケートの原案を作成し、全メンバーで意見を出し合い作成し
アンケート実施を準備する。
- ・青少年課にジュニアリーダー及び関係団体の活用可能性の状況を確認する。

⑤ 次回は、3 月 22 日 土曜日 14:00～ 開催することとした。

以上

- ・(参考情報) 2025/01/19 毎日新聞記事

関東学院大学では、KGU・社会連携活動として地域との連携活動を実施している。「地域の活性化に貢献する大学」として日本経済新聞キャリアマガジンで全国3位・私大1位との広報記事がありました。

学生がキャンパスに留まらず、地域や企業と連携して社会課題を解決することで自身を磨くことを目指すとのこと（地域創生学科）

- ・(参考情報)

中高生の体験学習として各地で学生模擬議会、学生模擬裁判等が開催されている。近くでは逗子市で学生議会が毎年開催され市政に対して、交通安全防止のための提案がされている。

法務省からも小中社会の教材として模擬裁判進行マニュアルが発行されている。

又、海外での学生による模擬国連活動の紹介がメンバーからありました。